

助成年度：平成 10 年度

[所属] 大阪府立大学 農学部獣医学科獣医外科学講座

[役職] 教授

[氏名] 大橋 文人 (他計 9 名)

[課題]

海洋汚染の生物示標としての日本沿岸に生息する鯨類の病理組織学評価

[内容]

漂着した野生のイルカの血液検査を評価するために、野生のスジイルカの正常な血液性状について調べ、その特徴を示した。また、死後に採血できたイルカの血液検査の結果を生前の血液検査所見と比較し、血液性状における死後の変化を明かにした。次に、太地での小型沿岸捕鯨で捕獲されたハナゴンドウ、マゴンドウおよび蓄養時に衰弱死した未成熟のバンドウイルカの組織を標本にし、組織アトラスを作成した。

これらの結果を参考に、捕獲後 2 週目に死亡した若齢バンドウイルカの剖検をおこなったところ、全身の削瘦と多数の寄生虫が認められ、慢性的な栄養不良状態より衰弱死したもの考えられた。さらに、実際にストレンジングした固体の調査として、死亡漂着したメソプロドン（コブハクジラ）の成熟雌の外部計測、剖検および臓器のサンプリングを実施し、限局性心筋炎および肺とリンパ節への好酸球浸潤を認めた。近くで発見された、メソプロドンの幼獣についても同質の病変が見られ、この 2 頭は親子である可能性が高いと思われた。また、別のストレンジングの例では、肺および肺リンパ節に炭粉沈着症を認め、イルカの生息する海域における大気汚染が推察され、今後、さらなる漂着固体の病理組織学的データの蓄積の必要性が示唆された。